令和元年度 月刊



校長通信12号

(生徒・保護者版) R2.3.19(3月号)

俊英 NOW

●卒業式

男子135名、女子42名、計177名の3年生が卒業しました。卒業式は、新型コロナウイルスの蔓莚で縮小を余儀なくされましたが、保護者の皆さんの参列を得て、心温まる式とな

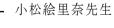
りました。各進路先で力を尽くし、成果を あげてくれることを期待しています。

色部寿弥学年主任をはじめ、1組古畑良 篤先生・2組窪田明子先生・3組大塚頼子先 生・4組柳沢光希先生・5組竹内琢美先生・ 6組田中英智先生、抜群のチームワークで さまざまな課題に、妥協することなく全力 で立ち向かっていった先生方の真摯な取 組に、心から敬意を表します。



●転退職の先生

教科		氏 名	転出先など	本校勤務年数
国	語	荻野佳宏 先生	愛知県立足助高校	H18年(2006年)から14年間。
数	学	宮島久子先生	退 職	H7年(1995年)から25年間。
英	語	窪田崩 ^ҳ	退職	H28年(2016年)から4年間。
英	語	小松恵里奈先生	青年海外協力隊	H26年(2014年)から6年間。
保	体	早川 竣 先生	長野養護学校	H31年(2019年)から1年間。
家	庭	高松幾久子先生	退 職	H29年(2017年)から3年間。
養	護	建部孝美先生	退 職	H26年(2014年)から6年間。
校	長	窪田善雄		H27年(2015年)から5年間。



皆さん、短い間ですまい。 をはいればなりではいいですが、お世話になりです。 をはいればいいですがいます。 をはいいではいいできない。 をいいではない。 をいいではない。 をいいではない。 をいいではない。 をいいではない。



●高校生仏師宮沢汰佳さん



本校 1 年 5 組の宮沢汰佳さんの話題が読売新聞に載りました。「仏像は恋人」と語る宮沢さんは、これまで約 300 体の仏像を粘土で制作してきました。現在、須坂市の田中本家博物館で 3/29 まで個展が開かれており、私も 3 月下旬、見に行くつもりでいます。新作の千手観音は、1 ヶ月かけ、それぞれの手に持つ法具など細部にまでこだわったそうです。拝観を楽しみにしています。

校長 ESSAY

無限の感謝

「校長通信」も最終号を迎えました。どれだけ読んでもらえているのか。 どれだけ家庭に届いているのか。半分ぐらいか?そんなにはいくまい。



でも鮭の遡上 36 (一説に 0.5%) よりはマシか?などと思いながら、ここまで来ました。それでも、保護者の方などから、ときどき好意的な感想をいただいたりすることもあり、そんな反応に励まされて 5 年間で 6 0 号を発行することが出来ました。ご愛読、有難うございました。

今年度末をもって本校を退職いたします。 5年の長野俊英高校での勤務は私にとってかけがえのないものでした。決して平坦な道のりばかりでなく、ときに山あり谷ありでしたが、それだからこその達成感もあり、充実した 5年間でもありました。

私は今、学校の窓から、春の雲を眺めています。ゆっくり流れていく雲の動きは、一抹の淋 しさを含みながら長野俊英高校での5年間を反芻している今の気持ちとシンクロしています。 実は、こうした心象をそのまま描いた作品があるのです。

ベルギーのシュールリアリズムの巨匠、ルネ=マグリット(1898-1967)という画家は、雲

の絵をたくさん描きました。そんな絵の中に、雲の中に二人の男の姿が浮かんでいる作品があります。そこには、思いがあてどなく 漂っているような雰囲気があり、今の私の心象風景そのままです。

ちなみにマグリットのこの作品、題名を『無限の感謝』といいます。まさに最終号を飾るにふさわしい絵画と思いました。諸先生方、生徒諸君、保護者の皆さま、本当にありがとうございました。この作品に思いを込めて、心から御礼申し上げます。



「無限の感謝」(1963年) ルネ・マグリット